

北海道・東北ブロック

岩手

- 【年間活動】
- 1 春季大会総会実施
研究授業・研究発表・講習会など
- 2 秋季大会
県書研と隔年実施
- 3 研究集録の発行
- 【採用試験】
- ・数年に一度実施 本年度試験があり1名合格
- 【教育課程の運用】
- ・書道Ⅰのみが増えている。
- ・学校設定科目は総合学科に多い。
- ・書道ⅡⅢは他教科との抱き合わせが多い。

青森

- 【年間活動】
- 1 書写研の開催は小中国語科との合体で実施。
- 2 高教研の研究会を開催。
- 【採用試験】
- ・専任が少ない(6名)、退職者3名、今年度の採用試験で2名合格
- 【教育課程の運用】
- ・カリキュラムは進学中心に組まれることが多く、書道Ⅰのみが増加。
- ・専任が少ないので、書道の開講減に繋がっていくのではないかとの懸念。

山形

- 【年間活動】
- 1 研究テーマを設定し研究班ごとに研究を進めている。(鑑賞・作品制作など)
- 2 1年に1回、研究発表会を実施。
- 【採用試験】
- ・今年度採用試験で1名合格。
- ・退職のあった学校では、教諭から非常勤になる例や書道の授業がなくなったケースが2校あり。(今年度と来年度と退職者あり)
- 【教育課程の運用】
- ・調査部資料のとおり。

福島

- 【年間活動】
- ・2020年度全国大会開催に向けて準備を進めている。
- ・年に1回センターで実技指導研究会を実施。
- 【採用試験】
- ・公立11名、私立5名の専任。5年間の教員採用試験で4名合格。今年度1名合格。
- 【教育課程の運用】
- ・専任教諭は総合学科に赴任していることが多く、総合学科では書道Ⅲまで実施している。

北海道

- ・2026年全国高等学校総合文化祭は北海道で実施。

●全国大会の受け入れについて

- ・秋田・青森はまだ全国大会を開催していないので、ブロックとしてはどちらかの県での開催を考えていきたいが、専任教諭の数や今後の退職の先生方の数を考えると、今、結論を出すのは厳しい状況である。宮城についてもまだ全国大会は未実施であるが、専任が2名なので開催は難しい。
- ・単独開催が難しいのであれば、2県合同でどちらかが授業発表、どちらかがホストとして運営にあたるのは如何か。

関東ブロック

茨城

- 【年間活動】
- ・4月役員会、5月総会
- ・研究協議会：各地区別れて実施
- 【採用試験】
- ・5年連続採用試験行う。1名合格。再任用増加。

埼玉

【年間活動】

- ・3月常任理事会、4月理事会、5月総会
- ・1月書初め展（小中高合同 書写書道研究会主催）
- ・高文連高校文化祭 11月中100校から110校参加

【採用試験】

- ・6名ずつ5年連続で実施。今年は2名。

群馬

【年間活動】

- ・高校芸術祭、教員書道展など

【採用試験】

- ・専任教諭の状況と国語採用で書道を担当している教諭の状況報告

千葉

【年間活動】

- ・高文連高校芸術祭120校参加
- ・視察研修会、実技研修会の開催
- ・教育課程研究協議会
- ・研究協議会（研究授業公開：小中高輪番で研究協議会開催）
- ・4科芸術合同での新規採用から若手の研修会

【採用試験】

- ・毎年採用試験を実施。今年度9名。

東京

【年間活動や採用試験】

- ・30年近く採用試験なし。非常勤のみ。
- ・2022全高総文東京大会に向けて準備を進めている。
- ・書道の授業を担当する非常勤講師と書道部を指導する顧問（他教科）の2層問題がある。他教科で書道部を指導する顧問の研修を開催。

神奈川

【年間活動】

- ・会報年1回発行、研修会開催、書道コンクール開催、高校書道展開催

【採用試験】

- ・5～6年前1回実施。それ以降は実施なし。書道教員の諸会議は年休で行われている。

●全国研究大会開催県の協議

- ・ブロック内で開催県を一つ候補を決めていく方向。各県に持ち帰り検討する。

北信越

【採用試験や教育課程の状況】

長野

- ・ここ6年連続で採用試験実施（理由：退職者増・再任用終了）
- ・進学校では単位数の減少傾向。状況は良くない。
- ・学校数79 教員数40（兼務・兼任含む）

新潟

- ・教員数32。採用試験10年間ほどなし。

福井県

- ・専任教員11名（兼務含む）
- ・採用試験昨年10年ぶりに実施し1名採用。今年度1名。
- ・今年3名退職。来年2名退職。2年後1名退職。3年後1名退職。
- ・授業時数も生徒減少により減ってきている。
- ・2024年近畿総文主催予定。

●2025年第50回全日本高等学校書道教育研究会北信越ブロック開催について

- ・福井：教員数の減少により運営人数確保が難しい
- ・長野：過去2回開催。教員の年齢30代から40代が少ない。
- ・新潟：20代がない。過去2回開催。7年前に開催。
- ・専任教諭の人数不足が目立つので、開催県が全てを担うのではなく、県ごとに役割を決めて開催するのはどうか。
- ・過去開催していない県で福井・富山・石川・山梨を候補に検討（富山・石川は欠席）。次年度の岡山大会では北信越ブロックの全県から参加し、検討事項を共有し、開催県を決定していきたい。

東海ブロック

三重

- 【年間活動】
 - ・研究会、研修授業、生徒教員展
- 【採用試験】
 - ・4年間なし

静岡

- 【年間活動】
 - ・研究会誌発行、年4～5回理事会開催、教員生徒研修会、研究授業大会講演会
 - ・小中との連携、出前授業
- 【採用試験】
 - ・しばらく実施されていなかったが、昨年1名採用、今年1名合格。

愛知

- 【年間活動】
 - ・県内各地域での展覧会、書写書道研究会、教員向け研修会（表具、文房四宝等）
- 【採用試験】
 - ・30年近く実施せず。愛知は国語で採用され書道を担当する。

岐阜

- 【年間活動】
 - ・授業実践報告、音楽美術書道の合同総会開催その開催日午後は各教科で総会。
 - ・生徒向け作品研究会を開催（外部講師）
 - ・研究授業、研修会開催
- 【採用試験】
 - ・4年前1名。6年前1名。

●全国大会の開催計画について

- ・過去静岡県2回開催、愛知・三重は1回開催。岐阜県は開催なし。
- ・ブロック開催はどうか。2県合同開催はどうか。
- ・岐阜県での開催であれば2024年より早い時期が良い。教員が退職してしまうので。2022年であれば岐阜県開催もできるかも。

近畿ブロック

京都

- 【年間活動】
 - ・年2回から3回の研修会・研究会を実施、役員体制は任期を2年間から3年間に定めて活動
- 【採用試験】
 - ・5年前から実施されず

兵庫

- 【年間活動】
 - ・年間2回の研究会、実践交流。音美書道合同研究会（2年に1回）公開授業、生徒・教員展（高文連と共催）など
- 【採用試験】
 - ・平成22年から再開

和歌山

- 【年間活動・採用試験など】
 - ・3年後の国民文化祭開催予定。それを機に採用試験が実施されることを願っている。

●全日本高等学校書道教育研究会全国大会の開催について

- ・2023年近畿ブロックの担当については、各県に持ち帰り検討を進めていく。情報交換会の状況を受けて、全国大会開催ブロックのことなどを各県事務局に本部事務局より文書で依頼をその都度進めていきたい。
- ・近畿総文（10府県）の開催県計画を本部事務局に後日報告予定。

四国ブロック

愛媛

- 【年間活動】
 - ・調査部報告資料の内容で実施。
- 【採用試験】
 - ・平成30年度に4年ぶりに2名採用
 - ・専任教諭12名＋講師4名から5名
- 【教育課程の運用など】

- ・伊予高芸クリエーションコース新設
- ・学校設定科目増単、総合学科県内3校書道学科設置なし

高知

【年間活動】

- ・調査部報告資料の内容で実施、教員展を毎年開催、実技講習会を開催し指導力向上を図っている。

研究授業・研究発表年間1回ずつ実施。

【採用試験】

- ・採用2年目が1名、今年度2名合格。

【教育課程の運用など】

- ・遠隔地は生徒数が少ないが、学校設定科目を増やし単位数を確保する努力をしている。
- ・高知市内は進学校が多く書道履修単位数が減っているため、教諭の数も減り3名しかいない。
- ・芸術科があるのは岡豊高校1校。設置学科の定員が充足しない学年もあり。書道の履修単位数も多く実力はついていない。

香川

【年間活動】

- ・調査部報告資料の内容で実施。教員書道展実施、教員数が減少し一人当たりの展示壁面が3,5mで苦労している。

・生徒実技講習会は2年間同じテーマで2日間実施。実施会場の関係で各高校2名から3名の参加。ここ数年は篆刻や漢字仮名交じりの書のテーマでの開催。

- ・教員研修会は隔年で実施。今年は都内博物館の先生に講演をいただいた関係で夏に現地（都内）研修会を実施。以前は中国への海外研修も行なったことがある。今年の研修会の試みは以降の研修のあり方の転機になる良い機会であった。

【採用試験】

- ・毎年1名ずつ採用。他の2県の様子や調査部資料を見ても恵まれていると感じている。現在高校教育課長が書道教員で、芸術部会長も書道の先生ということもある。4～5年に1名か2名ずつ定年退職があり、採用試験は継続されると思われる。以前は10年間ほど採用試験が実施されない頃もあったが、若返りがはかられ、若い先生の産育休期間の講師も制度化され、採用は安定している。

- ・専任教諭30名＋講師3名から4名、私立高校講師3名。

●全日本高等学校書道教育研究会全国大会開催について

- ・2021年愛媛大会の開催が決定しており、運営委員会実働。

その他

- ・四国ブロック代表の先生が定年退職後の講師の先生の担当のままという現状があり担当を検討。次年度より四国高等学校書道教育研究会の事務局が兼任することとし、2年おきに2019年度と2020年度は徳島、2021年度と2022年度は高知、2023年度と2024年度は香川、2025年度と2026年度は愛媛を予定。

中国ブロック

●【全国大会の開催についての意見交換】

- ・これまでは単独県開催で実施してきたが米子・松江あたりで2県の広域合同開催なども検討してもいいのでは。

・広島県は教員数も多く、過去2回の全国大会も実施している。前回の開催状況を経験している教員も少なくなってきたおり、広島県単独で開催するのは難しい時がくるかもしれない。採用数も少ない。

- ・島根県は教諭が3名、国語との兼務もあり。共同開催では運営準備にその都度集まるのも難しい状況。全国大会の運営や開催方法の見直しや規模縮小や隔年開催などの検討も必要。それぞれの県の事情もあり、全国大会運営に美術科や国語科の先生の運営補助の実態もあり、2日間のメニュー自体も見直しも今後検討の必要性がある。鳥取開催であれば、授業研究などは岡山・広島から助けが必要。

・現状の教員採用数減少傾向の中ではあるが、全国レベルの研究大会の運営を進めることで採用試験の実施に向かうようにしていく考えもある。中国ブロックでの集録誌上発表等を輪番制で実施する協力体制をまず実働させる工夫も必要。

- ・2県合同開催の場合は、運営予算措置は運営委員会の経費などもかさみ、大会運営予算の大枠の見直しも必要で、今後の開催ブロック輪番のあり方の変更、協賛金の集め方などの検討も必要となる。

・全国大会運営は本部事務局で専門部局などを設置し運営主体県と協働しながら全国大会の運営にあたることなどの検討も必要。

九州ブロック

福岡

【年間活動】

- ・福岡県高等学校書道教育研究会作成の資料集の作成は今年度で終了。

【採用試験】

- ・平成29年度実施

大分

- 【年間活動】
- ・調査部資料報告のとおり。
- 【採用試験】
- ・本年度採用試験実施。

佐賀

- 【年間活動】
- ・調査部資料報告のとおり
- 【採用試験】
- ・平成29年度実施

熊本

- 【年間活動】
- ・調査部資料報告のとおり
- 【採用試験】
- ・5年以上採用試験がない。

鹿児島

- 【年間活動】
- ・調査部資料報告のとおり。実技講習会なども実施。
- 【採用試験】
- ・平成29年度実施。大学院の1年生で採用試験に合格した方は大学院卒後に院卒として採用するとのこと。

沖縄

- 【年間活動】
- ・調査部資料報告のとおり。今年から教員展も実施。グローバル人材育成として県から台湾に派遣。
- 【採用試験】
- ・平成29年度実施

宮崎

- 【年間活動】
- ・調査部資料報告のとおり。教員作品展、大学講師を招いての講習会など。
- 【採用試験】
- ・平成30年度実施

- 【教育課程の運用なども含めた情報交換】
- ・宮崎：書道担当者の教育庁指導主事着任

●【全国研究大会の開催に関する意見交換】

福岡：過去2回 S57 H15

熊本：過去2回 H4 H29

鹿児島：過去1回

宮崎：平成30年度開催

- ・沖縄・大分・長崎・佐賀の中で、10年後の九州ブロック開催時の大分は人員配置上大変難しい。5年後なら実施可能である。佐賀は10年後は40代の教員が多くいる状況。
- ・熊本大会の開催では近県の先生方の協力があって大会が実施できた。今後もそのような連携がとて重要になる。本日の情報交換会のような機会を設け、協力体制が可能かどうかのそれぞれの県の実態を確認できたり考え合ったりする時間はとても必要で、良い機会であり、今後もこのような情報交換会は継続していただきたい。九州は一つになって助け合い協力し合う風土があり、今後も協力体制を維持発展させたい。